



やりがいを 感じて

小名浜ときわ苑

介護福祉士候補生

アフィアニ・ムスリカーさん (25)

EPA（経済連携協定）の介護福祉士候補生として小名浜ときわ苑で働きながら勉強しているアフィアニ・ムスリカーさん。アフィアニさんはインドネシア出身で、看護師の資格取得し、日本で介護福祉士の国家資格取得をするために来日した。



介護福祉士候補生 アフィアニ・ムスリカーさん

日本の介護の仕事とは、どんなものなのか、技術も知りたいと興味を持ったというアフィアニさん。介護福祉士の国家試験を受ける時に持っていると言われている日本語能力試験N2の勉強をしていることもあり、今では会話ができるほどのレベルだ。

名古屋で研修を受けた後、イスラム教の礼拝の時間や場所が設けられるという同施設で、昨年12月から資格取得に励むことになった。午前中は介護の仕事、午後は日本語の勉強をしている。「勉強より仕事の方が好き」とアフィアニさん。動くことが好きなので、仕事を好んでいる。

アフィアニさんの仕事は、朝の申し送り（入居者日誌）から始まる。それから入居者のバイタル測定後、排せつや食事などの介助全般を行っている。「介護福祉士の仕事は、たくさんあって覚えることもいっぱいで大変な仕事」と話す。でも人の役に立てる仕事だとやりがいを感じている様子。

中でも「おむつ交換が1番大変」と苦笑い。入居者に「ありがとう」と言われると“役に立てているんだなあ”ととても嬉しくなるという。「人の役に立つためなら、なんでも出来ます」とこれまで弱音をはいたことはない。

1人で対応することも増えてきて、時間はかかるそうだが、丁寧に接している様子。

昔、船乗りの仕事をしていたという入居者とお話をしていると、外国に行ったことがあったらしくイスラム教の話題に。入居者の中に、イスラム教のことを理解してくれている人がいたことが、とても嬉しかったというエピソードを話してくれた。

少しずつ、会話が弾んでいる様子のアフィアニさん。よく質問されるのは、かぶり物のこと。“ジルバブ”といい、イスラム教徒の女性が顔や髪を覆うものらしい。肌を見せてはいけないので、決まりを守りながら忠実に励んでいる。



候補生と日本語の勉強をしている様子

アフィアニさんは他の候補生と共に4人でシェアハウスに住んでいる。家族や友人に会いたくなってホームシックになることもあるが、スマホがあるから大丈夫と一蹴。えび天が好きとアフィアニさん。母国の鶏肉料理“オポールアヤム”が好きで自炊もしている様子。

介護福祉士の国家試験に合格することが当面の目標。3年間の実務経験を経て受験資格が得られるまで、あと2年と少しの期間、介護のことはもちろん、日本語の勉強も頑張りたいと意気込んでいる。

小名浜ときわ苑は、介護老人保健施設として平成8年3月に開設した。看護や医学的管理の下における介護及びリハビリテーションなど、入所や通所の各サービスを通じて、専門スタッフによるケアが受けられる施設。最近では、経済連携協定(EPA)の発効により、母国の看護師資格などの一定条件を満たした介護福祉士候補者の受入れを行っており、日本で介護福祉士国家資格を取得する外国人の支援を行っている。

本館・別館(ユニットケア棟)があり、本館は100床、別館は全室個室50床、短期入所療養介護、通所リハビリテーションは定員30名、訪問リハビリテーションも行っている。ヘルパーステーションきんの杖、ときわ会居宅介護支援センター、サービス付き高齢者向け住宅Well(ウェル)、Wellの中にあるデイサービスセンタールピナスも併設している。

介護老人保健施設 小名浜ときわ苑
(品質マネジメントシステムISO9001認証施設)
いわき市小名浜金成字町田18-1
詳細・問い合わせは、電話 0246-58-2300
HP: <http://www.onahama-tokiwaen.com/>

